

第2章
3 施策領域

農林水産業

あるべき姿(概ね30年後)

- 企業経営を実践している農林漁業者が、世界の最先端技術を活用しながら、競争力の高い農林水産業を展開しています。
- 日本一のかきやレモンに加えて、広島和牛や瀬戸内の地魚などの農林水産物を核とした新たな食の産業が集積され、ひろしまブランドが向上しています。

目指す姿(10年後)

- スマート農業の実装が進み、全国の中山間地域をリードする生産性の高い農業が確立され、担い手が企業経営を実現するなど、安定した所得を確保しています。こうした経営体が育成されることで、職業として農業を選択する人が増加しています。また、企業経営体をはじめとした担い手が、農村地域のリーダーとして兼業農家など多様な主体と連携し、生産活動を拡大しながら農地の保全活動等に取り組むことで、地域農業を支えています。

- 広島血統を代表する比婆牛が、価値の高い食材として県民や観光客に喜ばれ、広島を代表する食の一つとして認識され、同様に、神石牛の認知度も高まっています。また、肥育経営体においては、生産体制と労働環境が整った収益性の高い企業経営が確立されています。

- 県内人工林約14万haのうち、資源循環林4万haにおいて、林業経営適地の集約化が図られ、経営力の高い林業経営体により、50年サイクルで年間40万m³の県産材が安定的に生産される持続的な経営が行われています。また、年間40万m³の県産材が、生産から流通、加工、利用まで効率的に流れ、社会において有効な資源として利活用されています。

- かき養殖においては、デジタル技術を活用した効率的で安定的な養殖が行われ、全国一の生産量が持続されるとともに、産地単位で水産エコラベル認証が取得され、海外輸出にも対応可能な持続的な広島かき生産体制が構築されています。海面漁業においては、資源管理や漁場環境の整備などにより、安定的な漁獲量の確保と供給体制の構築が進んでいます。さらに、かきだけでなく、瀬戸内の多彩な地魚が広島を代表する食材として県民の誇りになるとともに、観光客の訪問のきっかけになっています。

用語解説
 スマート農業…AI/IoTや、ロボット、ドローンなどの先端技術を活用して農作業の省力化・生産性の飛躍的な向上・農産物の高品質化を実現する新たな農業の在り方。
 企業経営体…農業経営において明確なビジョンを掲げ、従業員の育成や財務管理等のマネジメントを着実に実施しながら、効率的かつ持続的な経営発展を行うことができる法人経営体。
 広島血統(和牛)…江戸時代後期に、比和村(現庄原市比和町)の畜産農家、岩倉六右衛門がいち早く品種改良に着手した黒毛和牛の4大ルーツのひとつ「岩倉豊」に代表される、広島県固有の血統を有する和牛が、後に「比婆牛」や「神石牛」の名で全国に知られたことから、これらの血統を有する広島県産和牛を広島血統和牛と称している。

指標

	現状値(H30)	10年後の目標値(R12)
農業生産額	712億円	746億円
農業生産額1千万円以上の経営体数	605経営体	705経営体
農業生産額1千万円以上の経営体生産額	234億円	335億円
比婆牛を取り扱う高級飲食店の増加数	—※1	30店舗
広島和牛を肥育する企業経営体数	2経営体	15経営体
広島和牛を肥育する企業経営体の飼養頭数	1,800頭	4,850頭
集約化された林業経営適地の面積	0ha	4万ha
かき輸出量	1,500t	2,500t
海面漁業※2生産額800万円以上の担い手数	50経営体	84経営体
海面漁業※2生産額800万円以上の担い手生産額	7億円	19億円

※1 広島県内の高級飲食店を紹介するガイドブックに掲載されている店舗数 0店舗(R2)
 ※2 いわしを除く

目指す姿の実現に当たって考慮すべき課題

- 企業経営体への農地集積や水田の畑地化等とスマート農業技術の導入を一体的に進め、生産性の向上を図るとともに、多様化するニーズに応えられる商品づくりや、販売チャネルの強化を行うことで、収益性の高い新たな経営モデルを構築する必要があります。また、経営力の高い担い手の育成に向け、発展段階に応じた支援に取り組んでいますが、より多くの担い手が企業経営を実現することが求められています。
- 比婆牛がGI(地理的表示)登録されるなどブランド化に向けた取組が始まっているものの、県民や観光客への認知が十分進んでいません。また、肥育用子牛の県外流出などにより、子牛の安定確保に課題があることから、肥育経営体への繁殖部門の導入を進めるとともに、経営規模の拡大や法人化など一層の企業化を進めることが求められています。
- 林業を行う事業地の集約化が進んでいないことや、所有林管理に対する不安、採算性の悪さから再造林が進んでいないなど、長期的に安定した林業経営の確立に至っていません。
- かき養殖では、採苗不安定化や人件費高騰によるかき養殖経営の不安定化と生鮮かきの国内需要縮小への懸念に加え、地球温暖化による影響や、海洋プラスチックごみなどの環境問題への対応が課題となっています。また、海面漁業では、漁獲量が減少していることに加え、地魚の魅力やおいしさが県民や観光客に十分伝わっていません。
- 新型コロナの収束後は、国内外旅行や外出に対する心理的ハードルの高まりや在宅勤務の拡大などにより、企業や住居の地方への分散や自宅等での滞在時間が増えるなど、これまでとは異なる生活様式の定着が進むことから、価値観の変容や消費者の需要動向が変化することが予想されます。
 また、今回の感染症の世界的な流行により、一部の国において、穀物を中心に輸出規制の動きもあり、食料の安定供給への関心が高まっています。

資源循環林…木材生産を行う林業経営を通じて適切に維持・管理された森林。
 林業経営適地…現場条件が良く、一定規模の面積としてまとまっており、地域の関係者により持続的な林業経営を行う場所として設定された森林。
 水産エコラベル認証…水産資源や生態系などの環境にやさしい方法で行われている漁業や養殖業を認証する仕組み。
 海面漁業…海面において、利潤又は生活の資を得るために、生産物の販売を目的として、水産動植物を採捕すること。
 販売チャネル…商品を流通・販売するための経路や方法のことを指す。現在は、市場取引のほか、産直取引、契約栽培、直売所、ネット通販など、多様な流通が行われている。
 GI(地理的表示)登録…品質や社会的評価など確立した特性が産地と結び付いている産品の名称(地理的表示)を知的財産として登録し、国が保護する制度「地理的表示(GI:Geographical Indication)保護制度」のこと。本県では、比婆牛、豊島タチウオ、大野あざり、福山のくわいが登録されている(令和2年10月末)。

第2章
3 施策領域

農林水産業

目指す姿の実現に向けた取組の方向

① 地域の核となる企業経営体の育成

経営体個々の発展段階に応じて専門家派遣や生産工程管理等への支援を行うなど、企業経営体の育成に取り組みます。また、農産物の生産から流通、加工、消費に至るまでのデータを相互活用し、効率的な受発注・配送が可能となる仕組みづくりに取り組みます。

② スマート農業の実装等による生産性の向上

需要に応じた高収益作物の生産拡大を推進するとともに、ロボットやドローン、複合環境制御技術等の導入を支援することで、生産性の向上を図ります。

③ 新規就業者等の新たな担い手の確保・育成

全国から意欲ある若い人材を呼び込むために、本県農業の魅力を積極的に発信するとともに、相談体制や実践型の研修制度等を充実し、新規就業者の確保・育成を強化します。また、組織運営のノウハウや資金力を有する企業の農業参入も促進します。

④ 担い手への農地集積と基盤整備

担い手が希望する農地と地権者の意向の一元管理に取り組み、効率的なマッチングを進め、担い手の規模拡大につなげます。また、スマート農業に対応できるような場の大区画化や水田の畑地化等の基盤整備を行い、生産性の高い優良農地への転換を進めます。

⑤ 中山間地域農業の活性化

農地・農業用施設を保全していく活動や、個々の集落に適した鳥獣被害防止対策など、担い手と兼業農家などが連携して、地域農業を維持する取組を支援します。また、食育や農業体験などの地産地消の取組により、交流人口の拡大を図ります。

さらに、新型コロナ後は、「適切な分散」という中山間地域の価値を生かしたビジネスモデルに取り組む農林水産業者を支援するとともに、安全・安心な農林水産物に対する関心が更に高まることが予想されることから、安定的かつ持続的な供給を図ります。

⑥ 持続可能な広島和牛生産体制の構築

比婆牛の価値要素を更に高め、首都圏の著名シェフの高い評価を発信することにより、県内高級飲食店での取り扱いの拡大を進め、ブランド化を図ります。

また、肥育・繁殖経営の規模拡大、受精卵産子の安定供給、リタイヤする経営の継承など、生産体制を構築するとともに、スマート農業やGAPなどのモデル波及に取り組むことで、生産性を高め、持続性の高い企業経営体の確保・育成を進めます。

⑦ 森林資源経営サイクルの構築

森林の循環利用のサイクルを構築するため、航空レーザー測量データ解析結果を基に、林業経営適地を設定し、林業経営体への集約化を進めるとともに、森林経営を担う長期的視点を有した経営力の高い林業経営体の育成を進めます。また、森林のデジタル情報基盤の構築やIoT技術を活用したシカ被害抑制対策など、再造林を確実に実施するために必要な技術の確立を進めます。

⑧ 森林資源利用フローの推進

「広島県産木材利用促進条例」に基づき組織化した「ひろしま木づかい推進協議会」を中心として、住宅に加え、公共建築物や店舗等の木造化・木質化、木製家具等での高付加価値製品の開発や販路拡大に取り組めます。

⑨ 海外展開を見据えたかき生産出荷体制の構築

デジタル技術を活用したかき生産の効率化や安定化を図るとともに、養殖資材の適正処理など環境に配慮した養殖の推進により国際認証等の取得を進め、海外輸出にも対応可能な持続的なかき生産体制の構築を図ります。

⑩ 瀬戸内の地魚の安定供給体制の構築

水産資源の管理や漁場環境の整備、最先端の漁獲技術の導入などにより、本県及び瀬戸内海全体での水産資源の回復と保全を図り、安定的な漁獲量を確保します。また、新鮮さや多彩な魚種を有する強みを生かして、瀬戸内の地魚のブランド力の向上に取り組めます。



用語解説
 複合環境制御技術…温度、湿度、二酸化炭素濃度及び日射量等、農作物の生育に影響を及ぼす複数の環境要因を連動させながら制御し、生産性の向上を図る技術。
 GAP…Good Agricultural Practiceの略。農業分野において、食品の安全や自然環境の保全、生産者の労働安全や人権の保護に配慮し、持続可能な農畜産物の供給につながるよう生産工程を管理する取組。
 航空レーザー測量…航空機等に搭載したレーザー計測装置によって、地形の形状や樹形等を解析し、森林の資源状況を把握する測量。
 森林のデジタル情報基盤…森林の集約化や森林整備等に必要となる森林に関する情報(資源、所有者、施業履歴等)を、地理空間情報と関連させつつ、デジタル上で関係者が共有し活用できる仕組み。